

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 総合シート

事業名称	「丘の生活拠点」(南花台)自立化推進モデル事業(事業期間:平成29年度～令和元年度)
事業の目標	開発団地が連なる河内長野市南部において、それらの玄関口に位置し、「丘の生活拠点」と位置付ける南花台地域において、社会情勢の変化や地域課題の変化に対応できる持続可能なまちにするため、多様な社会実験的取組みを通じ、地域住民・事業者連携によるまちづくり活動を継続できる仕組みと自立運営体制の構築を図る。 具体的には、「地域の総力を結集する(地域住民だけでなく、地域の事業者や医療施設・教育機関等と密に連携できる仕組みを構築)」、「地域で考える力をつける(地域が主体となったまちづくり展開を可能にする仕組みを構築)」、「地域で稼ぐ力をつける(まちづくりに必要な経費を生み出す仕組みを構築)」、「地域の新たな資源を創出する(空地や緑地など地域のストックを新たな資源として活用する仕組みを構築)」の4つをまちづくりの仕組みとして構築することにより、「まちづくりの活動を継続してやりつづけられるまち」を目指す。 さらに、本事業を通じて生み出された様々な社会実験的取組みを他地域においても活用可能な事業モデルとして磨き上げ、他地域のまちづくりに応用し、横展開を図ることで、市内開発団地全体の活性化を目指す。
全体の概要	地域活動拠点「コノミヤテラス」を中心とした社会実験的活動の企画・実施及び活動の自立運営体制構築を図るほか、地域主体の包括的な生活支援のための多様な取組みの磨き上げ、他地域を対象にした視察の受入れや報告会等を通じた意見交換の実施、UR集約型団地再生事業に係る新機能の誘致に向けた研究・検討等を行う。

【数値目標及び実績】

項目		事業開始前	平成29年度 (増加分)	平成30年度 (増加分)	令和元年度 (増加分)	累計
地域活動を担う人材の発掘人数【人】	目標	30	20	20	20	60
	実績		31	11	81	123
地域まちづくりコーディネーターの発掘人数【人】	目標	1	2	2	2	6
	実績		3	1	2	6
ソーシャルビジネス(生活支援活動を含む)の創出(分野)件数【件】	目標	4	3	2	2	7
	実績		2	0	1	3
令和元年度の指標の状況及び事業への反映の考え方		・「地域活動を担う人材の発掘」については、子育て支援のスタッフが増加したことや、新たな移動サービスの実用化に向けた取組み「南花台モビリティ クルクル」の運営スタッフが地域から発掘されたことから、大幅に増加した。 ・「地域まちづくりコーディネーターの発掘人数」については、生活応援のリーダーが新たな人材に引き継がれたことや、「南花台モビリティ クルクル」運営に係るコーディネーターが発掘された。 ・「ソーシャルビジネスの創出件数」については、「南花台モビリティ クルクル」の取組みが開始された。 ・これまでのまちづくり活動をきっかけとして、新たに自動運転の実用化に向けた実証実験が開始されたほか、UR集約跡地を活用した地域活性化の取組みなど、新たな展開が見えてきている。こうした南花台の動きに触発されて、市内の他地域からもまちづくり活動創出の機運が高まりつつあり、今後、本モデル事業の横展開を加速させることで、市全体の活性化を図っていく。				

※令和元年度実績は見込み

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	「丘の生活拠点」(南花台)自立化推進モデル事業	
要素事業①	「丘の生活拠点」(南花台)自立化推進モデル事業	担当課 総合政策部政策企画課 市民生活部自治協働課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和元年度実施事業	・提案事業総合企画調整 ・「総合研究会」など各プロジェクト会議の運営 ・地域活動拠点「コノミヤテラス」の運営及び自立化の推進 ・「咲く南花台健康クラブモニター制度」の実施 ・「買物支援」の取組み実施および「生活支援」への取組み拡大 ・石仏地区におけるまちづくり活動の実施 ・錦秀会看護専門学校との連携(授業カリキュラムやスポーツイベント等での地域との連携創出) ・「コノテラ通信」発行など地域による情報発信 ・UR集約事業の推進 ・「南花台モビリティ クルクル」の取組み推進 ・子育て支援の取組み充実(子育て支援拠点整備含む)	[参考指標] ●「コノミヤテラス」オープン日数:362日/年 ●「コノミヤテラス」運営による収益:350,400円(H31.1～R1.12累計) (H30年:260,400円) ●健康クラブモニター人数:62人(H30年:61人) ●買物支援(延べ)件数:129件(H30年:95件) ●生活支援(延べ)件数:52件(H30年:34件) ●コノテラ通信発行回数:12回(H30年:12回)	6,000
	(合計)		6,000

	【令和元年度評価】	【令和元年度の評価内容】
担当者評価	①非常に効果的であった	健康クラブ、生活支援の取組み充実、コノミヤテラスの拡張(子育て支援拠点)、スタッフの増加など、実施内容・体制ともに充実した。 また、電動ゴルフカートを活用した新たな移動サービスの実用化に向けて「南花台モビリティ クルクル」の取組みが開始され、その運営スタッフとして地域の新たな活動の担い手が多数、発掘された。 さらに、府スマートシティ戦略構想の代表モデルとしての位置付けに加え、内閣府・環境省・国交省など国の省庁との連携も深まる中で、他自治体やNPO団体等からの視察も増加している。 一方で、UR集約工事が開始し、跡地への新機能の誘致や公園集約などまちの姿を大きく変える事業についても、地域内の合意形成がしやすくなっている。

評価:交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	・「南花台モビリティ クルクル」の取組みと、生活支援や健康づくり、子育て支援などの取組みとの連携を図り、地域生活における移動の課題解決と、生活の質の向上、コミュニティの活性化など相乗効果を生み出していく。 ・UR集約跡地の活用に向けた調整、公園の集約に向けた検討等を行う。 ・南花台で創出されたまちづくり活動のモデルを市内他地域へ横展開し、市全体の活性化につなげていくことで持続可能なまちの構築を図る。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	